



HAMACUL ART PROJECT 2025

採択事業者一覧

本資料について

- 本資料は、事業実施時に作成された紹介資料を引用し、まとめたものです。記載内容は当時の計画等に基づくものであり、あくまで参考資料としてご参照ください。

記載情報の取り扱いについて

- 資料内に記載されているスケジュール、連携団体、実施地域などの各種情報は、プロジェクトにおける主たる計画の代表例です。
- これらの情報を公式なデータとして正式引用することはできませんのでご留意ください。

無断利用の禁止

- 本資料に掲載されている情報（テキスト、画像、図表、スケジュール等）の無断転載および無断利用を固く禁じます。



(事業者名順)

No.	事業者名	事業名	活動地域
01	一般社団法人とおがったプロジェクト	これまで。これから、	葛尾村・双葉町
02	Hi there合同会社	Unrecorded Landscapes 記録されない風景に価値を与えるNFTアートプロジェクト	南相馬市
03	合同会社シネマ健康会	福島県12市町村ロケ映画プロジェクト ～ 映画制作&ワークショップ&上映～	川内村・楡葉町・富岡町
04	旅するたたき場	旅する身体を通し地域の魅力や課題を 多角的に捉え直し発信する4+1編のアートプロジェクト	楡葉町
05	松本 律子	[Dear KAWAMATA] -民話を語る-	川俣町
06	永井 文仁	視覚と身体で記憶を呼び起こす写真による 写真による地域再発見プロジェクト	双葉町・浪江町
07	一般社団法人オムスビ	「レジデンスを設計する」 地域とともに考える、地域とアートの新しい関係	南相馬市小高区
08	秋元 菜々美	土地の時間を巡る滞在制作事業	富岡町
09	ブルーエゴナク	『広野町をガイドする』	広野町



(事業者名順)

No.	事業者名	事業名	活動地域
10	学校法人東北芸術工科大学	東北画は可能か？月歴画	楡葉町
11	株式会社キネマ旬報企画	福島浜通りシネマプロジェクト2025	双葉町
12	ガッチ株式会社	浪江学生デジタルアート道場2025 Digital Growth	浪江町（大堀地区中心）
13	日本大学理工学部	“私”的世界遺産劇場	富岡町・南相馬市



- 01 一般社団法人とおがったプロジェクト
- 02 Hi there合同会社
- 03 合同会社シネマ健康会
- 04 旅するたたき場
- 05 松本 律子
- 06 永井 文仁
- 07 一般社団法人オムスピ
- 08 秋元 菜々美
- 09 ブルーエゴナク
- 10 学校法人東北芸術工科大学
- 11 株式会社キネマ旬報企画
- 12 ガッチ株式会社
- 13 日本大学理工学部





採択者の活動スケジュール

NO.	採択者名	現地活動期間						イベント・ワークショップ開催日	成果報告会開催日		
		8月	9月	10月	11月	12月	1月			2月	
01	一般社団法人 とおがったプロジェクト	■	■	■	■	■	■	■	■	ワークインプログレス 2025/10/22,12/27,2026/2/1	・成果発表展 ・振り返り会 2026/2/10
02	Hi there合同会社	■	■	■	■	■	■	■	■	写ルンですワークショップ 2025/11/15	写真作品の展示 2026/1/31~2/8
03	合同会社シネマ健康会	■	■	■	■	■	■	■	■	上映イベント・ワークショップ 2025/9/19~9/23	新作プレミア試写会 2026/2/6~2/8
04	旅するたたき場	■	■	■	■	■	■	■	■	・耳で聴く檜葉MAP 11月 ・徒歩旅行劇、クリスマスコンサート、 星を鳴らすワークショップ 12月 ・わたしとあなたの秘密の基地、くものうえのあそびのぼ1月	ZINE『交差のまにまに』 2026年春頃
05	松本 律子	■	■	■	■	■	■	■	■	マリンバとおはなしのコンサート 2025/10/22~10/23	川俣の民話語りを聞こう 2026/1/24~1/25
06	永井 文仁	■	■	■	■	■	■	■	■	・浪江町で制作した作品の発表とcameratruckの体験 2026/1/17~18 ・双葉町で制作した作品の発表とcameratruckの体験 2026/1/31~2/1	
07	一般社団法人オムスビ	■	■	■	■	■	■	■	■	・DIYワークショップ 10月、1月 ・クロストークイベント 10月 ・インプットリサーチツアー 10月	プレゼン発表&写真展 2026/1/12~1/18
08	秋元 菜々美	■	■	■	■	■	■	■	■	・PRイベント実施 2025/9/25~9/27 ・夜の森 穴火祭り 2026/2/8	展示 2026/1/31~2/8
09	ブルーエゴナク	■	■	■	■	■	■	■	■	ワークショップ 2025/12/13~12/14	上演「アンモナイトのうたう丘」 2025/12/27

採択者の活動スケジュール

NO.	採択者名	現地活動期間						ワークショップ開催日	成果報告会開催日		
		8月	9月	10月	11月	12月	1月			2月	
10	学校法人東北芸術工科大学	■	■	■	■	■	■	■	■	東北画は可能か?@檜葉町 2025/9/26~9/28	成果報告会と展覧会 2026/2/4~2/14
11	株式会社キネマ旬報企画									・リーダーズキャンプ 2025/9/29~23 ・映画づくり体験 2025/10/15~20	完成上映会 2025/12/20
12	ガッチ株式会社									・中間報告会 12月 ・アート講義 11月~2月	展示会&トークイベント 2026/2/6~2/8
13	日本大学理工学部									上演 11月~2月	東京公演 2026/2/8

一般社団法人とおがったプロジェクト

事業者情報



代表者 永井 京花

所在地 宮城県刈田郡蔵王町

WEBサイト

<https://www.tr044.org/>



事業の基本情報

事業名 これまで。これから、

実施地域
・ 葛尾村
・ 双葉町

連携団体

葛尾村、森健太郎、葛尾村移住・定住支援センター、一般社団法人葛尾むらづくり公社、双葉町、一般社団法人ふたばプロジェクト、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構、東日本大震災・原子力災害伝承館

Point

「わたしたちのこれからの歴史」を紡ぐ、福島でのアーティストインレジデンス

事業概要

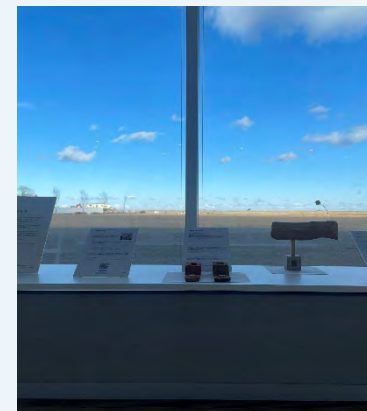
本事業は、2024年度のハマカルアート参画を通じ、復興の定義が地域や立場により異なることを実感したことから始まった。

特に葛尾村では既存住民と移住者が混在する状況に、双葉町では移住者中心のフロンティア精神あふれる自治体に強い関心を抱いた。

これらの地域が今後どのような歴史を刻むのか、コミュニティとしてどう発展するのかを探求するため、「わたしたちのこれからの歴史」をテーマとしたアーティストインレジデンス事業を実施する。

インスタレーション、陶芸、写真、ドローイング、音の5組のアーティストがそれぞれ3週間以上滞在し、地域住民との交流やワークショップを通じた制作活動を行う。

成果は葛尾村復興交流館あぜりあと原子力災害伝承館で3ヶ月間展示するほか、仙台・山形・東京でのサテライト展示により広く発信する。



滞在制作型 No. 01 一般社団法人とおがったプロジェクト

事業期間中の主なイベント

Event 1

10月22日(水) ▶ 2月1日(日)

ワークインプログレス

各アーティストによる途中
成果発表、ワークショップ
等の開催

Event 2

11月29日(土) ▶ 2月10日(火)

成果発表展

現地での成果発表展の実施

会場：
葛尾村復興交流館あぜりあ

11/29(土)には
トークイベントを実施

Event 3

12月13日(土) ▶ 2月6日(金)

サテライト展

山形市
会場：Q1
期間：12/13(土)~12/21(日)

仙台市
会場：せんだいメディアテーク
期間：1/10(土)~1/14(水)
※1/10(土)12:30~13:30は仙台市内をちん
どんで練り歩くオープニングイベントを
実施

東京都墨田区
会場：うちの居間分館
期間：1/23(金)~2/6(金)

Event 4

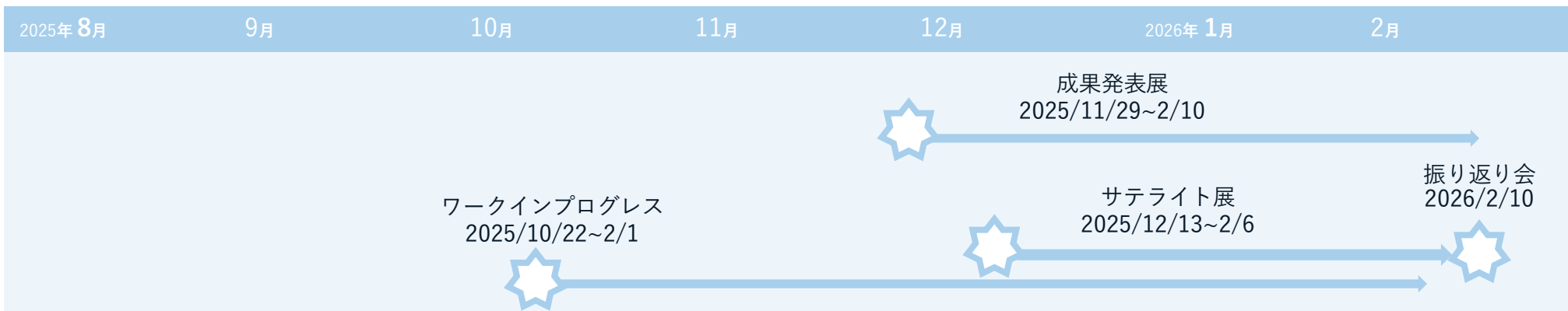
2月10日(火)

振り返り会

現地での振り返り会の実施

会場：
葛尾村復興交流館あぜりあ

事業全体スケジュール



No.02 Hi there 合同会社

事業者情報



代表者 鈴木 孝昭

所在地 福島県福島市

ウェブサイト

<https://friday-screen.com/>



事業の基本情報

事業名 Unrecorded Landscapes
記録されない風景に価値を
与えるNFTアートプロジェクト

実施地域 南相馬市

連携団体 南相馬市博物館、
marutt Inc.、Qumt llc

Point

浜通りの風景を映像化し、
NFT技術で参加型復興記録プロジェクトを展開

事業概要

本プロジェクトは、福島県浜通りの風景を定点カメラで丁寧映像化し、見る人に“想い”を届ける詩のような映像作品を制作する。

この映像はNFT技術を活用し、ひとつひとつを“作品”としてインターネット上で所有できる仕組みとなっている。作品の持ち主は次回撮影場所の決定投票に参加でき、プロジェクトの一員として能動的に関わることができる。

震災からの復興を“記憶”として継承しながら、新しい人の流れや関心を創出することで、福島への持続的な関与を促進する。

定点観測による風景の変化記録と、参加型NFTプラットフォームの組み合わせにより、従来の復興支援とは異なる新しいアプローチで地域との絆を深める取り組みを実施する。

デザインの力を活用し、視覚的に美しく心に響く映像表現を通じて復興の現在進行形の姿を広く発信していく。



事業期間中の主なイベント

Event 1

11月15日(土)

写ルンですワークショップ

写ルンですを使って、「今の風景を新たに参加者がカメラで記録する」ワークショップを実施。撮影した写真はデータ化したあと、FRIDAY SCREENで選定した写真を（1人に1点を想定）ポストカード印刷する。ポストカードは成果報告展で展示・配布する。

Event 2

1月31日(土) ▶ 2月8日(日)

写真作品の展示

会場：東日本大震災・原子力災害伝承館

イベント：

- ・1月31日（土）14:15~15:15 アーティストトーク
- ・2月5日（木）10:30~11:30 「写ルンです」を使用したワークショップ

事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

11月

12月

2026年 1月

2月

事業開始

写ルンですワークショップ
2025/11/15

写真作品の展示
2026/1/31~2/8

事業終了

合同会社シネマ健康会

事業者情報



代表者 松本 卓也

所在地 東京都渋谷区

ウェブサイト

<https://cineken.com/>



事業の基本情報

事業名 福島県12市町村ロケ映画プロジェクト
～ 映画制作&ワークショップ&上映～

実施地域 川内村、富岡町、檜葉町

連携団体 森 恵美、岩崎 登、
一般社団法人町分アーカルベース、
コミュニティハウスにじいろ

Point

福島県12市町村での滞在型映画制作と参加型ワークショップによる地域共創プロジェクト

事業概要

本事業は、昨年度の川内村での滞在制作の成果を基盤に、福島県内12市町村を舞台とした映画制作・上映プロジェクトを実施する。

映画監督・松本卓也が中心となり、地域に根ざした「ゼロからの創作」手法により、各地での丁寧な取材・ヒアリングを通じて土地の空気や人々の声から新たな物語を紡ぎ出す。

映画制作の各段階（企画・撮影・編集・上映）において参加型ワークショップを開催し、キャスト・スタッフともに地域住民を広く募集することで、単なる作品制作を超えた地域との共創を実現する。

完成作品は福島県内12市町村の複数会場で上映し、地域間の連携と文化交流を促進する。川内村の地域の魅力や可能性を映像で発信し、地域への関心と訪問機会の創出を目指す。広域連携による創造的な波及効果で福島の新たな姿を発信する。



事業期間中の主なイベント

Event 1

9月19日(金) ▶ 9月23日(火)

上映イベント、ワークショップ

12市町村各地でのイベントを行い、
多くの方々との交流も実施。撮影の
準備を進めていく。(4日間)

イベント詳細はこちらから



Event 2

12月10日(水) ▶ 12月22日(月)

映画撮影

川内村を中心に撮影合宿を実施

Event 3

2月6日(木) ▶ 2月8日(土)

新作プレミア試写会 (入場無料)

富岡町
会場：トータルサポートセンターとみおか
期間：2月6日(金) 18:00～
※17:45～舞台挨拶

檜葉町
会場：みんなの交流館 ならはCANvas
期間：2月7日(土) 10:00～

川内村
会場：コミュニティハウスにじいろ地域文化伝承教室
期間：
・2月7日(土) 15:00～
・2月8日(日) 10:00～

事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

11月

12月

2026年 1月

2月

上映イベント、ワークショップ
2025/9/19~23

映画撮影
2025/12/10~22

新作プレミア試写会
2026/2/6~8

事業開始



事業終了

事業者情報



代表者 星 善之

所在地 福島県耶麻郡西会津町

ウェブサイト

<https://www.area51map.net/tabisurutatakib>



事業の基本情報

事業名 旅する身体を通し地域の魅力や課題を多角的に捉え直し発信する4+1編のアートプロジェクト

実施地域 檜葉町

連携団体 燈-tomoshi-bi-、
ならばこどものあそび、
kashiwaya

Point

檜葉町での関係性をテーマにした多角的アートプロジェクトとZINE制作による発信

事業概要

本事業では、昨年度のハマカルアートプロジェクト2024での檜葉町でのリサーチ・ワークショップ・パフォーマンス実施を基盤に、より深化した地域との関係性構築を目指す。

演劇作家、演出家、セノグラファー、打楽器奏者、演出助手からなる「旅するたたき場」の各メンバーが、昨年築いた松館地区の住民や「ならばこどものあそびば」との交流関係を活かし、それぞれの専門性と視点から地域コミュニティ内で多様な活動を展開する。

「よそ者」としての視点を持ちながら檜葉町と東京の関係性、檜葉町の過去・現在・未来への関係性、人間同士の関係性を多角的に捉え直し、その価値の再確認や課題の顕在化を試みる。

活動の集大成として地域の間人関係やコミュニティの再確認につながるZINEを制作し、感覚や疑似体験を通じた血の通った対話創出を図る。

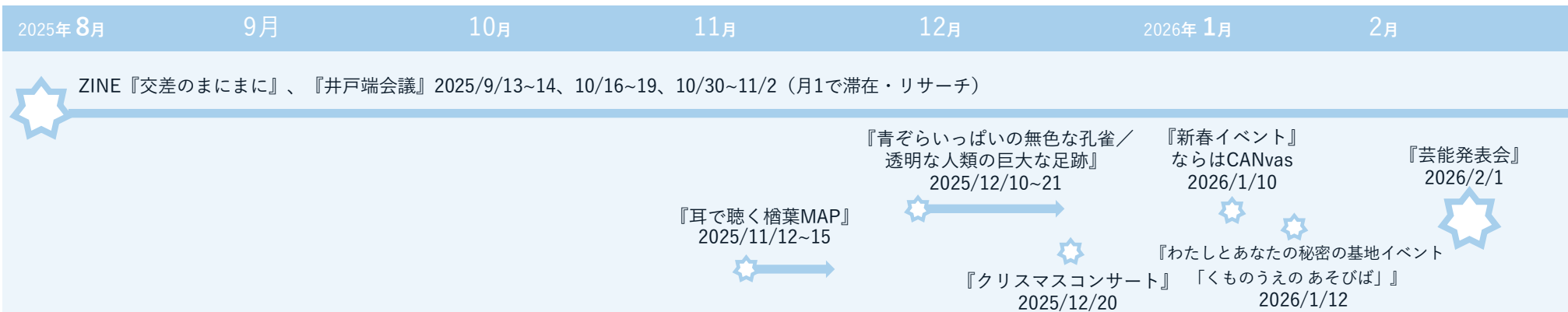
また、ZINEは他地域への檜葉町紹介ツールとしても機能し、地域外への発信装置としての役割も担う。



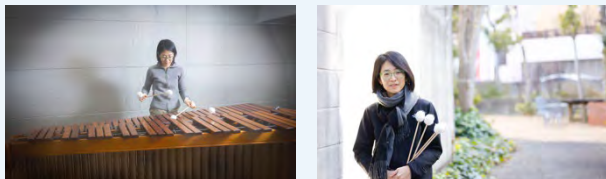
事業期間中の主なイベント

<p>Event 1</p> <p>11月12日(水) ▶ 11月15日(土)</p> <p>『耳で聴く檜葉MAP』</p> <p>檜葉町に住む方々の日常動作音などフィールドレコーディングし、録音した音とともに即興を行う。「檜葉町に住むこの人に会いに行きたい」と思わせるような耳で聴く檜葉人マップを作成する。</p>	<p>Event 2</p> <p>9月 ▶ 11月</p> <p>『井戸端会議』</p> <p>地域で行われているクラフトの活動や布草履作りの会などの場に参加し、手仕事やお茶の時間を通して自然発生的に生まれる雑談の中から、地域の人々が抱える課題や社会に対する思いを聞き取っていく対話型インタビュープロジェクト。</p>	<p>Event 3</p> <p>12月10日(水) ▶ 12月21日(日)</p> <p>『青ぞらいっぱい無色な孔雀／透明な人類の巨大な足跡』</p> <p>浜通りは東京圏に比較的近いことから木炭、石炭、原子力とエネルギーの供給源になっていたことのように歴史的にも密接に関係する東京檜葉を繋ぐ道歩くことでその距離身体を通して再認識する。</p>	<p>Event 4</p> <p>1月12日(月)</p> <p>『わたしとあなたの秘密の基地』</p> <p>子どもたちが主体となって「秘密基地」を作り上げるプロジェクト。子どもたちが自分たちの得意なこと、好きなことを教える先生になり、大人たちはそれを学ぶ生徒になる。一般的に言われる先生と生徒の役割が交換される現象を生み出すことによって、新たな関係性を町内の人たちの中で生み出す。</p>	<p>Event 5</p> <p>2026年春</p> <p>ZINE 『交差のまにまに』</p> <p>各プロジェクトの活動を俯瞰して地域の人々と東京に住む人々に還元する。</p>
---	---	---	--	---

事業全体スケジュール



事業者情報



代表者 松本 律子

所在地 神奈川県相模原市

ウェブサイト

<https://ritsukomarimba.com/>



事業の基本情報

事業名 [Dear KAWAMATA]
-民話を語る-

実施地域 川俣町

連携団体 民話の会

Point

川俣町に息づく民話をマリンバの響きと共に紡ぎ、
世界へと届ける音の物語

事業概要

本事業では、昨年度の川俣町での音楽アルバム「Dear KAWAMATA」制作を通じて知った、川俣町の豊富な民話のアーカイブと「民話の会」の活動に着目し、民話をテーマとした音楽作品を制作する。川俣町「民話の会」の全面協力のもと、地域の成り立ちから風習、慣習、自然災害の記憶まで、世代を超えて伝えられてきた民話を町民による語りで録音する。録音は町民を観客としたライブ録音と滞在拠点でのアトリエ録音を組み合わせ、民話に登場する場所のサウンドスケープもフィールドレコーディングで収録する。マリンバ奏者松本律子がこれらの音源とマリンバ・打楽器を組み合わせ、音楽制作を行い、ストリーミングサイトで全世界リリースする。失われつつある方言の豊かさや民話を川俣町の財産として音楽作品で残し、町内外での活用を促進する。完成後は町内複数箇所で「お礼のつどい」を開催し、地域交流と文化の再発見を促す。



事業期間中の主なイベント

Event 1

9月 ▶ 11月

ライブ収録&アトリエ収録・フィールド
レコーディング

観客を入れての語りの収録および、松本の拠点での
語りの録音。民話に登場する場所でのフィールドレ
コーディング。(1~3回目は地元住民のみ参加可)

- 1回目：9月9日（火）@川俣町中央公民館集合 9:30
- 2回目：10月21日（火）@川俣町中央公民館集合
- 3回目：10月23日（木）@川俣町保健センター
- 4回目：11月4日（火）川俣民話を語る会

Event 2

10月22日(水) ▶ 10月23日(木)

マリンバとおはなしのコンサート

10月22日（水）9:50~認定こども園

10月23日（木）10:00~川俣町役場子育て支援課
(地元住民のみ参加可能)

Event 3

1月24日(土) ▶ 1月25日(日)

川俣の民話語りを聞こう

1月24日（土）10:00・13:00

1月25日（日）10:00・13:00

(全4回。開場は開演の30分前)

会場：かわまた おりもの展示館・機織り伝承室
(道の駅かわまた 内)

事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

11月

12月

2026年 1月

2月

ライブ収録&アトリエ収録フィールドレコーディング
2025/9/9、10/21、10/23、11/4

マリンバとおはなしのコンサート
2025/10/22~10/23

川俣の民話語りを聞こう
2026/1/24-25

事業者情報



代表者 永井 文仁

所在地 神奈川県中郡二宮町

ウェブサイト

<https://www.instagram.com/nagaifumihito/>



事業の基本情報

事業名 視覚と身体で記憶を呼び起こす写真による地域再発見プロジェクト

実施地域
・ 双葉町
・ 浪江町

連携団体 合同会社いること

Point

空白の記憶を光で紡ぐ、福島12市町村への「cameratruck」による風景の詩

事業概要

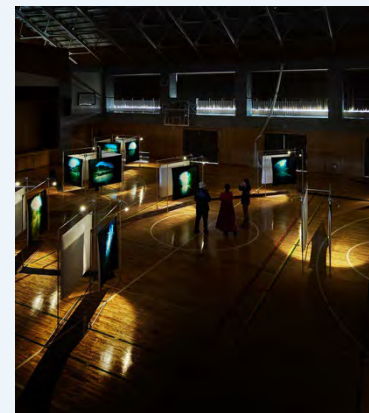
本事業は、東日本大震災および原発事故によって変化を強いられた地域の「記憶」と「風景」を写真表現で可視化・再発見することを目的とする。

2024年に葛尾村で延べ60日間滞在し、トラックの荷台を改造した内部に入れるカメラ「cameratruck」を用いて、大判印画紙に村の風景を直接写し取る作品『ひかりをすくう』を制作した。

葛尾村は物理的壊滅は免れたが原発事故により5年間無人となった地域で、穏やかでありながらどこか空白のような違和感のある風景が広がる。

この「空白の記憶」を視覚化するため、光の記録という独自技法を試みた。完成作品は超高解像度でデジタル写真を凌駕する臨場感を持ち、フレーミングのない丸い画面構成が身体的没入感と解釈の余地を残す。

今後は福島県内帰還困難区域12市町村へと展開し、2~3年をかけてプロジェクト全体を完成させ、制作地および国内外美術館での展示発表を目指す。



🏠 事業期間中の主なイベント

Event 1

1月17日(土) ▶ 1月18日(日)

制作した作品の発表とcameratruckの体験@浪江町

浪江町のオープンアトリエにて、滞在制作した作品の展示とトラック荷台カメラ体験を行います。

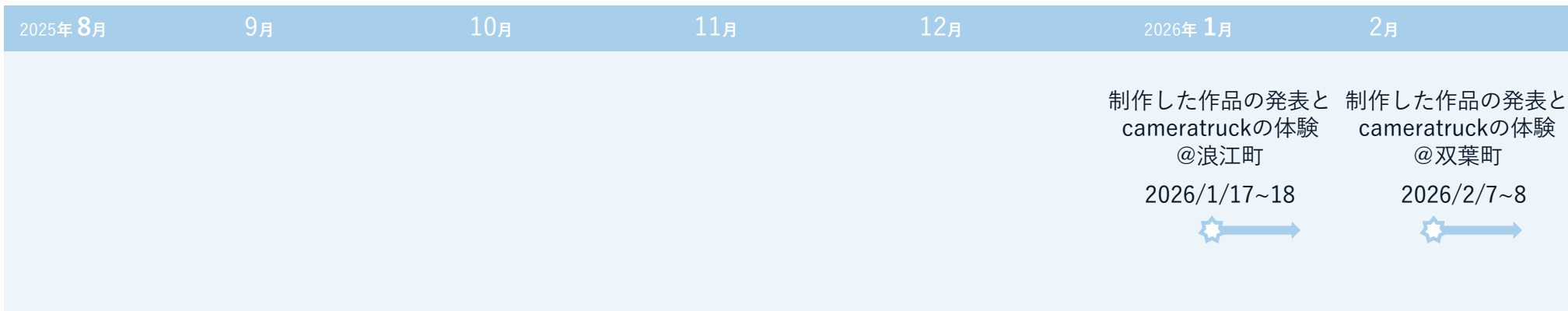
Event 2

2月7日(土) ▶ 2月8日(日)

制作した作品の発表とcameratruckの体験@双葉町

双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館にて、滞在制作した作品の展示とトラックカメラ体験を行います。

🏠 事業全体スケジュール



事業者情報



代表者 森山 貴士

所在地 福島県南相馬市

WEBサイト

<https://omsb.co>

事業の基本情報

事業名 「レジデンスを設計する」
——地域とともに考える、
地域とアートの新しい関係

実施地域 南相馬市小高区

連携団体 南相馬市教育委員会
生涯学習課

Point

ゼロから育む小高区の創造、
アーティストと住民が織りなす地域再生のストーリー

事業概要

本事業は、「自分たちのまちの姿は自分たちで決められる」という実感と主体性を取り戻すことを目指し、福島県小高区で地域課題解決とまちづくりを続けてきた一般社団法人オムスビによる取り組みである。

一度ゼロになった地域だからこそ、誰かに任せるのではなく再び自分たちで作りに上げていくことで、真に豊かで持続性のある地域が創れると考えている。

小高区のアーティスト・イン・レジデンス「群青小高2023」に参加したアーティスト・竹下和輝氏を中心に、複数のアーティストと共にレジデンス拠点のあり方とこれからの地域とアートの関わり方をリサーチする。

アーティストと地域住民の交流を通じて地域資源の再発見と活用を生み出していく場について考察し、新しい着眼点や意味が与えられることで地域の中でやれること・できることを増やすことを目指す。

このような活動により、地域の主体性回復と創造的な地域づくりの実現を図る。



🏠 事業期間中の主なイベント

Event 1

10月5日（日）、1月16日（金）

DIYワークショップ

滞在しているアーティストや地域住民と共にKONNOの空間を造っていくワークショップを行う。

Event 2

10月12日（日）

インプットリサーチツアー

加藤康司氏を招聘し、インプットリサーチツアーを実施します。文化や歴史だけでなく、素材探しや作品発表になりそうな場所などについても共に探っていく。

Event 3

10月12日（日）

クロストークイベント

中須賀愛美氏、中塚文菜氏、加藤康司氏にてクロストークイベントを開催。

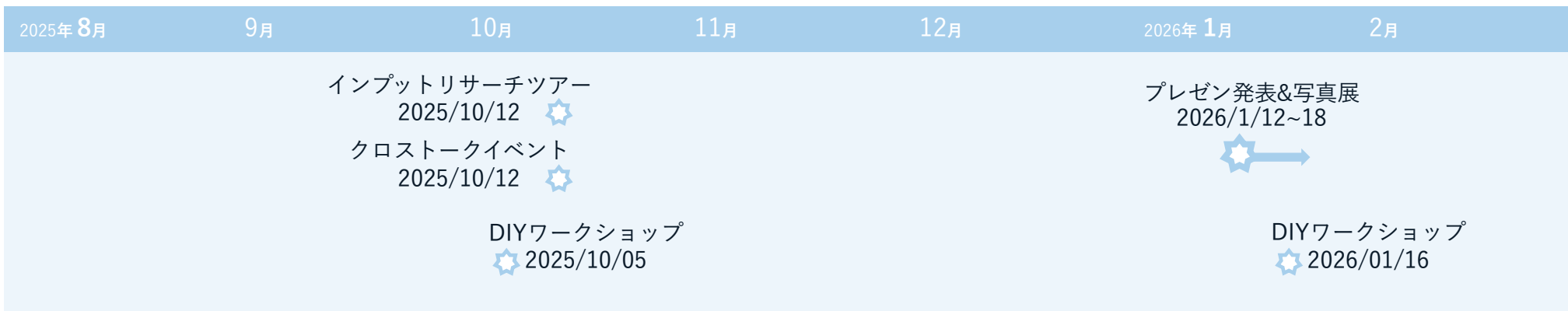
Event 4

1月12日(月) ▶ 1月18日(日)

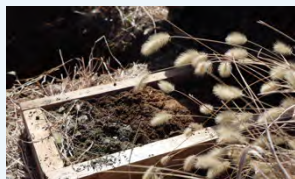
プレゼン発表&写真展

竹下和輝氏と共にプレゼン発表を行う。また、写真の持ち主から許可を得た場合のみ、ファウンド・フォト写真展を開催

🏠 事業全体スケジュール



事業者情報



代表者 秋元 菜々美

所在地 福島県双葉郡富岡町

WEBサイト

<https://note.com/sacra21/n/nf93161f1e336>



事業の基本情報

事業名 土地の時間を巡る滞在制作事業

実施地域 富岡町

連携団体 一般社団法人双葉郡地域観光研究協会、夜の森まちづくり塾、富岡町

Point

土地の時間を読み解く作品制作のプロセスを通して、富岡町のこれからの住民とアーティストが共に描いていく

事業概要

本事業は、「土地の時間にまつわる滞在制作事業」として本年度は演劇ユニットhumunus（フムヌス）及び建築集団ガラージュの2組6名のアーティストチームによるフィールドワーク、取材、発表等を行うものである。humunusはガイドブック『うつほの襷0 塵と汐のみち』を使用したツアーの開発、ガラージュは夜の森地区での仮設建築の制作が主な取り組みとなる。これまで地域との関係性を丁寧に紡いできた秋元菜々美氏が中心となり、地域住民とアーティストが協働して売却や建物建設までの更地の期間に土地を活用する価値の理解浸透・波及を目指す。アーティストが地域住民と共にリサーチを行う中で、震災・原発事故という経験を経た地域だからこそ可能な、住民主体の協創的なまちづくりの実現を図ることを目的としている。



Humunus『うつほの襷0 塵と汐のみち』



中間アヤカ『踊場伝説』セノグラフィー (KYOTO EXPERIMENT 2023)

事業期間中の主なイベント

Event 1

9月25日(木) ▶ 9月27日(土)

イベント出展

愛知県のツーリズムEXPOジャパンにて、連携企業の双葉郡地域観光研究協会のブースでPRを実施。会場では、書籍の販売と、ツアー作品のプレスリリースを実施します。

イベント詳細はこちら



Event 2

1月31日(土) ▶ 2月8日(日)

展示

humunusおよびガラージュの滞在制作の成果を公開する展示を実施します。展示を実施できる空間は相双地区全体でも多くはありません。展示空間の掘り起こしをし、地域の協力を得ながら実施します。

なお、humunusとガラージュの展示空間は別会場になると見込んでいます。



Event 3

2月1日(日)

トークイベント

ツアー作品のプレスリリースに関するトークイベントを実施します。

2月1日(日) 14:15~15:45

場所：東日本大震災・原子力災害伝承館 研修室



Event 4

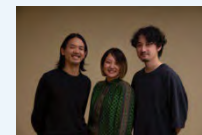
2月8日(日)

夜の森 穴火祭り

ガラージュによる仮設建築イベントを実施します。

2月8日(日) 16:00~21:00頃まで※焚火は16:30より着火

場所：夜ノ森駅前



事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

11月

12月

2026年 1月

2月

事業開始

イベント出展
@愛知
2025/9/25~27

トーク イベント
2026/2/1

夜の森 穴火祭り
2026/2/8

展示 2026/1/31~2/8

事業者情報



代表者 穴迫 信一

所在地 なし

ウェブサイト

<https://buru-egonaku.com/>



事業の基本情報

事業名 『広野町をガイドする』

実施地域 広野町

連携団体 複数団体

Point

住民自らの記憶をもとに、地域に内在する風景を可視化する

事業概要

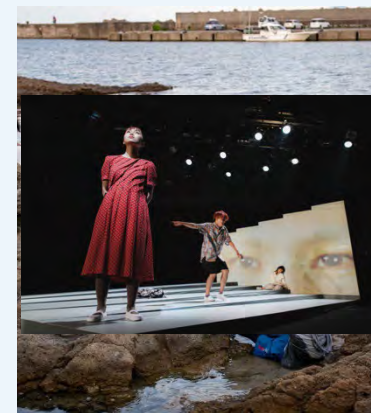
本プロジェクトは、福島12市町村の地域において、特定の場所に基づく住民自身の記憶や経験を起点とした演劇作品を創作・上演することで、地域に内在する時間や風景を舞台芸術の形で可視化する試みである。

「広野町をガイドする」をテーマに、公募で集まった住民が自らの思い出の場所を案内し、ツアーガイドの解説形式で個人の記憶を語る。

そのプロセスをもとに上演テキストを参加者とともに作成し、俳優が実際の場所にて上演する。

商店街や公園などパブリックな空間で、ベンチや喫茶店といった複数の場所をツアーのように移動しながら連続上演する「回遊型公演」を想定している。

演劇が外から持ち込まれるのではなく、土地と人との間で生成される形式とすることで、福島という土地の複層的な時間を住民自身の視点から立ち上げる。



事業期間中の主なイベント

Event 1

12月13日(土) ▶ 12月14日(日)

市民参加ワークショップの実施

広野町にて、地域住民との対話を通して演劇作品の素材を発掘することを目的としたワークショップを実施します。

参加者には、自身のお気に入りの場所やエピソードを他の参加者や私たちに向けて紹介（ガイド）してもらいます。これは個人の記憶を可視化し、その土地ならではの物語として共有されます。

<実施スケジュール> @多世代交流スペースぷらっとあっと

1回目：12月13日(土) 10:00-12:00

2回目：12月13日(土) 13:00-15:00

3回目：12月14日(日) 10:00-12:00

4回目：12月14日(日) 13:00-15:00

Event 2

12月27日(土)

上演「アンモナイトのうたう丘」

ワークショップでの体験や参加者の語りをもとに、最終的な成果物である演劇作品を制作します。

参加者が語った個人の記憶がテキストとして再構成され、俳優が演じることで、地域の日常に新たな視点をもたらします。公演の形態は地域の環境に応じて柔軟に設計し、必ずしも演劇の既存の形式にとらわれない多様な展開を模索します。

<実施スケジュール> @ひろの未来館2階多目的ホール
12月27日(土)14:00開演（13:45開場）

事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

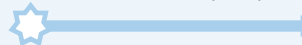
11月

12月

2026年 1月

2月

滞在期間 2025/12/4~29



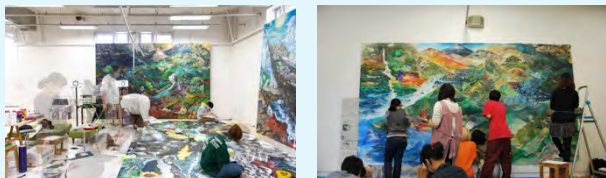
市民参加ワークショップ

2025/12/13~14



上演「アンモナイトのうたう丘」
2025/12/27

事業者情報



代表者 三瀬 夏之介

所在地 山形県山形市

ウェブサイト

<https://x.com/touhokuga>



事業の基本情報

事業名 東北画は可能か？月歴画

実施地域 檜葉町

連携団体 なし

Point

時を重ねる記憶を絵筆に込め、浜通りの風土と共に描く
「月歴画」の記録

事業概要

本事業は、2009年に東北芸術工科大学で東北における美術のあり方を考える活動として、日本画コース教員・三瀬夏之介と洋画コース教員・鴻崎正武と、後に加わった洋画コース教員・狩野宏明を中心にスタートした「東北画は可能か？」プロジェクトの15年目の取り組みである。現在の学生メンバーは東日本大震災発災時まだ5歳であり、震災の特定の場面だけを記憶に持つ世代となっている。時を重ねるごとに東日本大震災は経験のない昔話となるが、現在取り組んでいる共同制作「月歴画」には様々な地域の人々の営みや風土が描かれる。これからも直面するであろう災害に対する大事な記憶を刻み込む共同制作を、浜通りの方々の記憶や風土と共に作り上げることを目指す。震災の記憶を持つ世代から記憶を持たない世代へと移り変わる中で、絵画表現を通じて地域の記憶と風土を継承し、未来への備えとなる芸術作品を創出する。15年間継続してきた活動の蓄積を活かし、新たな世代による東北の美術表現の可能性を探求する。



🏰 事業期間中の主なイベント

Event 1

2月5日(木) ▶ 2月8日(日)

「東北画は可能か？」成果展の実施

2月5日(木)～2月8日(日) 10:00～17:00

※2月8日(日)下記イベント開催

- ・ 13:00～14:00 トークイベント「東北画とは何か？」
- ・ 14:15～15:00 ライブパフォーマンス「めぐるめく」

会場：みんなの交流館 ならはCANvas

Event 2

2月4日(水) ▶ 2月14日(土)

山形で報告展の実施

2月4日(水)～2月14日(土) 10:00～19:00

会場：レンタルギャラリー-THE LOCAL

🏰 事業全体スケジュール

2025年 8月

9月

10月

11月

12月

2026年 1月

2月

「東北画は可能か？」
成果展の実施
2026/2/5～8



山形で報告展の実施
2026/2/4～14



事業者情報

キネマ旬報企画

映画24区

代表者 星野 晃志

所在地 東京都中央区

ウェブサイト

<https://fukushima-cinemaproject.jp/>

事業の基本情報

事業名 福島浜通りシネマプロジェクト 2025

実施地域 双葉町

連携団体

双葉町産業交流センター、ビジネスホテルARM双葉、東北アクセス株式会社、双葉町役場、一般社団法人ふたばプロジェクト

Point

双葉町の変わりゆく今と変わらぬ心を、
学生と住民が紡ぐ映像の記憶

事業概要

本事業は、福島県双葉町でプロの映画監督や俳優と映画づくり体験に参加したい学生を全国から募集し、学生が地域住民と関わりながら映画制作を行う取り組みである。開始当初は学生だけの活動だったが、3年を経て地域住民や地元企業の協力を得られるようになり、地域に根ざしたプロジェクトとして発展している。

復興の中で目まぐるしいスピードで移り変わっていく町の姿を、創造性あふれる学生たちの目を通して映画という形で記録し続けることを目指す。

一方で震災前から双葉町に伝承されてきた歴史や文化など、人々の心の中にあり続ける「変わらない双葉町」の姿も学生たちに伝えたいと考えている。

参加学生には今後の浜通り地域のまちづくりに関心を持ち続けてもらい、近い将来、直接的・間接的な形で浜通り地域の発展に寄与することを期待している。

映画制作を通じた地域交流により、次世代の地域づくりを担う人材育成と地域の記録保存を同時に実現する。



🏰 事業期間中の主なイベント

Event 1

11月23日(日) ▶ 11月24日(月)

リーダーズキャンプ

学生リーダーが事前に現地視察を行い、地元企業や地域住民とのワークショップを開催します。

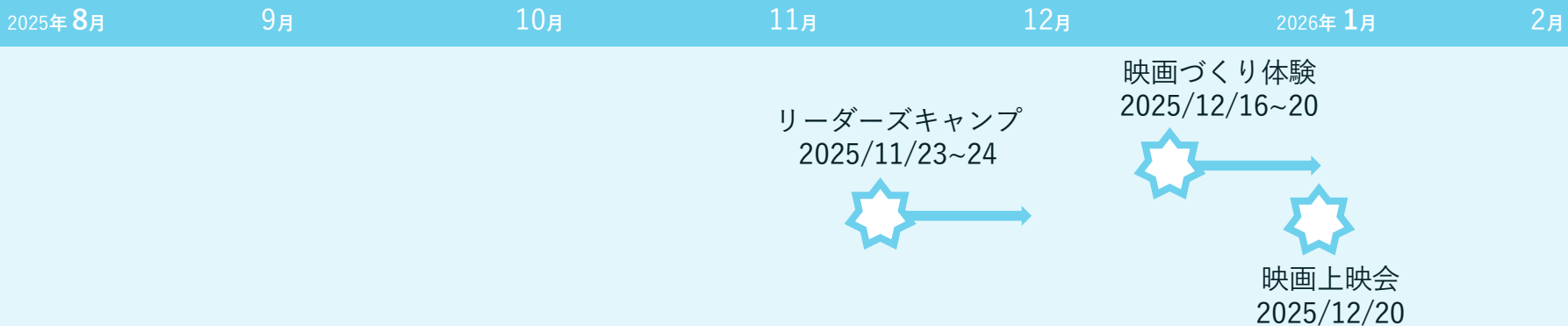
Event 2

12月16日(火) ▶ 12月20日(土)

映画づくり体験

福島県双葉町にて、プロの映画監督や俳優と映画づくり体験に参加したい学生を全国から募集します。実施期間は5日間（4泊5日）。2チームに分かれて双葉町を舞台にしたオリジナルの短編映画を制作します。
また、12/20(土)には完成上映会を双葉町産業交流センターで実施します。

🏰 事業全体スケジュール



No. 12 ガッチ株式会社

事業者情報



代表者 松永 武士

所在地 東京都港区

ウェブサイト

<https://gatch.co.jp/>
<https://namiedojo.gatch.co.jp/>



事業の基本情報

事業名 浪江学生デジタルアート道場
2025 Digital Growth

実施地域 浪江町
(大堀地区を中心とした全域)

連携団体 浪江町、公益社団法人 福島相双復興推進機構（福島相双復興官民合同チーム）、株式会社経営芸術総合研究所、復興支援センターMIRAI、浅尾栄、齋藤精一、田島悠史

Point

浪江町大堀に響くデジタルの調べ、
学生と住民が紡ぐ創造の拠点づくり

事業概要

本事業は、福島県浪江町をルーツとするガッチ株式会社が、震災以降も地域に根ざした活動が続ける中で実施する「浪江学生デジタルアート道場2025 Digital Growth」である。浪江町大堀地区を中心に、学生アーティストと地域住民がともに学び、つながりを生み出しながらデジタルアートの展示を実現する。

事業独自のポイントは、学生アーティスト対象の現地支援プログラムと地域住民向けアートレクチャーの実施である。ハマカルアートプロジェクトに過年度から参画し、活動拠点である松永窯店舗跡地を「地域住民とアーティストが交流できるクリエイティブな拠点」として確立することを目指す。県外の若い世代のアーティストから県内の一般人まで、松永窯店舗跡地を「文化芸術の拠点」として活用されるよう促進する。デジタルアートを通じた世代を超えた交流により、浪江町大堀地区における新たな文化創造の場を構築し、地域の文化的再生と発展に寄与する。



事業期間中の主なイベント

Event 1

9月中旬 ▶ 10月下旬

公募開始～
参加アーティスト決定

登竜門やSNS、関係学部への周知・広報を通じて全国から学生アーティストの募集を開始。

書類およびポートフォリオ審査を実施し、3組程度の学生アーティストを採択・通知。

Event 2

11月3日(月)

フィールドツアー (2泊3日)
教育プログラム#1

学生アーティストが現地を訪れ、地域の歴史・文化を学ぶフィールドワークや住民との交流会、企画発表を実施。同時にアートや地域文化に関する教育プログラムを開催、住民と学生の相互交流を図る。

Event 3

12月12日(金) ▶ 12月14日(日)

中間報告会 (2泊3日)
教育プログラム#2

学生アーティストが現地集まり、住民・専門家に中間成果としてプレゼンテーションを実施する。講評やフィードバックを受けてブラッシュアップを行い、アドバイザーは支援を行う。

Event 4

11月 ▶ 2月

アート講義

11/3(月)、12/12(金)、1/12(月)、2/7日(土)の計4回実施。

第4回アートアカデミー
詳細・申込みはこちら



Event 5

2月6日(金) ▶ 2月8日(日)

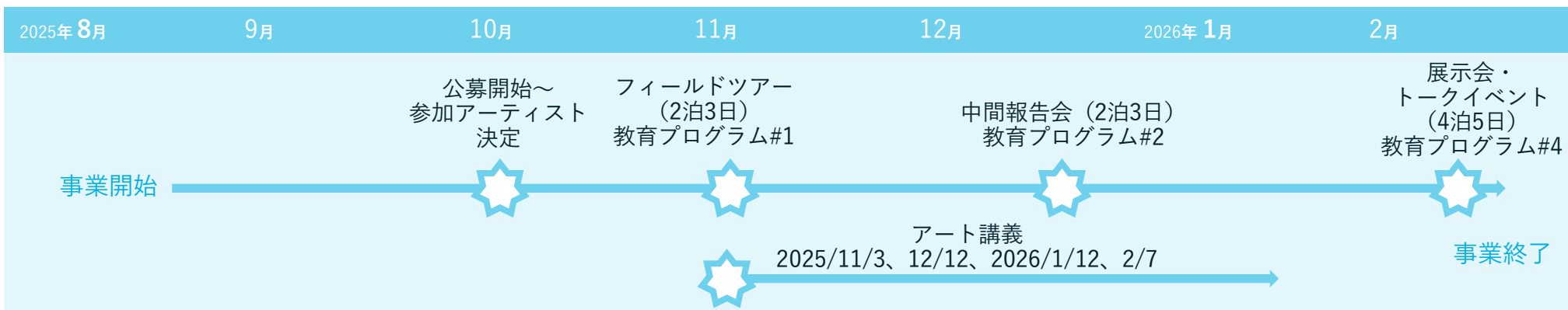
展示会・トークイベント (4泊5日)
教育プログラム#4

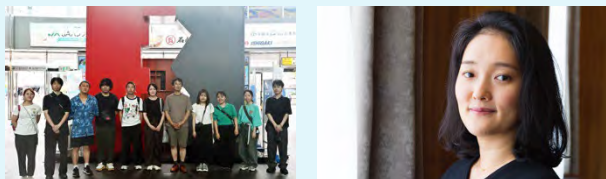
松永窯店舗跡地で完成作品を展示する。

トークショーの
詳細・申込みはこちら



事業全体スケジュール



 事業者情報


代表者 佐藤 慎也・大川 碧望

所在地 東京都千代田区

WEBサイト

<https://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp/lab/lab-298/>


 事業の基本情報

事業名 “私”的世界遺産劇場

実施地域 ・富岡町
・南相馬市

連携団体 NPO法人インビジブル、
富塚絵美

Point

地域に宿る記憶から生まれる劇場を、
建築の眼差しで紡ぐ対話の舞台

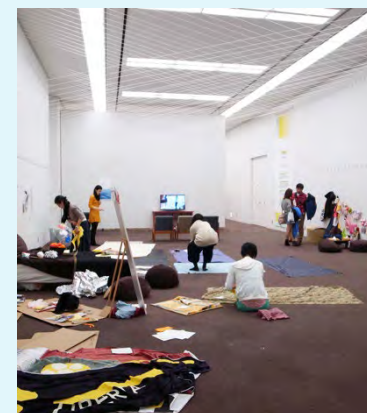
事業概要

本事業は、「アートのための建築」をテーマに芸術文化施設の建築計画研究を行う日本大学理工学部建築学科佐藤慎也・大川碧望研究室による取り組みである。

アーティストとともに、その地域に劇場をつくるための研究（調査・実験・試作）を実践し、地域の人たちの“私”的な遺産（記憶）によって生み出す即興演劇の上演を行う。

地域の人たちとのつながりや対話を創出し、地域を建築的視点から再発見することで、地域内から生まれる新たな劇場や演劇といった価値の創出を目指す。

多くの研究室学生や卒業生、アーティストが参加し、その地域で劇場をつくることを目指して研究・上演を行う。震災と原発事故による複合災害を知らない世代に向けた記憶の継承方法の研究と実践となり、地域の人々のみならず学生を含めた表現者にとっても、地域を知り、地域の人々と対話を行い、考え行動する有益な時間となることを期待している。建築と演劇の融合による新たな地域表現の創出を図る。



🏰 事業期間中の主なイベント

Event 1

11月1日(土)

チームvision先行型上演

地域の人たちが参加する
即興演劇の上演

Event 2

12月20日(土)

チーム寄り添い型上演

地域の人たちが参加する
即興演劇の上演

Event 3

1月18日(日)

チームコンセプト型上演

地域の人たちが参加する
即興演劇の上演

Event 4

2月8日(日)

東京上演

学生が参加する即興演劇
の上演による報告

🏰 事業全体スケジュール

